



園評価の結果について

学校法人 北邦学園
東橋いちい認定こども園

令和6年度に実施した東橋いちい認定こども園の自己評価の結果の概要は、次のとおりです。

建学の精神 「自然から学ぶ」

1 本園の教育保育目標

・思いやりのある子 ・考え工夫する子 ・明るくたくましい子

- 0歳児 保育教諭や友達と一緒に安心して過ごす中で、いろいろな遊びに興味をもち、園生活を喜ぶ
- 1歳児 保育教諭や友達と一緒に安心して過ごす中で、自分の思いを表現しながらいろいろな遊びを楽しむ
- 2歳児 友達や保育教諭に自分の気持ちを言葉で表現し、活動や遊びを楽しむ
- 3歳児 様々な遊びや活動に興味をもち取り組む中で、自分なりに気持ちを表現しながらいろいろな友達と一緒に遊ぶことを楽しむ
- 4歳児 クラスの友達と一緒にいろいろな遊びや活動に意欲的に取り組み、自分の気持ちや考えを伝え合いながら遊ぶことを楽しむ
- 5歳児 様々な活動に取り組む中で、自分なりに目標や見通しをもって意欲的に行動することや、いろいろな友達と気持ちや考えを認め合いながら自信をもって遊びや活動を進めることを楽しむ

【各学年のねらい(年間)】

自己評価	評価内容
【自己評価】 「A」	・年度当初に計画した、それぞれの年齢での子どもの育ちとしては、概ね目指してきた姿に達することができたと感じる。 ・乳児クラスに関しては、発達に合わせて一人ひとりが安心して過ごせるように保育者との愛着形成や保育環境を意識して援助を行えたと感じる。 ・幼児クラスに関しては、多様な体験と経験を通じて個としてまた集団としての成長に繋がられるよう援助が出来たと感じる。

(A：成果が上かった B：ある程度成果が上がった C：もう少し努力が必要 D：改善が必要)

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

(A：成果が上かった B：ある程度成果が上がった C：もう少し努力が必要 D：改善が必要)

課 題	具体的な取組み方法
1 保育環境の工夫	☆「遊び」の広がりや発展に繋がる環境創りの工夫 * 保育室内の玩具の見直しと充実 * 園庭の整備による魅力の向上 * 遊戯室の環境整備の実施 * 園内研究を通しての保育室内の環境構成の見直しと改善
【自己評価】 「B」	【評価内容】 ・日々変化する自然環境と安心して過ごせる室内環境、どちらにしても子どもたちがより身近に感じられるよう、玩具や環境整備を常に意識して保育を行った。 ・子どもたちが遊びのイメージを膨らませ発展させながら、様々な経験に繋がるように素材や環境構成を意識し取り組んだ。しかし準備や計画性という点に関しては、日々の忙しさの中で意識が薄くなってしまうこともあるため、今後も継続して取り組めるようにしたいと考える。 ・今後も新たな玩具制作や園庭遊びの充実に向けて取り組んでいきたい。
2 発達に応じた子どもの理解	☆子どもの発達過程やその思い・言葉に寄り添う * 子どもの気持ちに寄り添った保育援助の工夫 * 子どもやその保護者とのコミュニケーションの充実 * 発達の理解と援助や支援の学びの充実 * 様々な観点からの情報共有や連携・相談の意識向上 ・様々な場面の中で、子ども一人ひとりの姿を受けとめ、その子ども達の育ちに合わせた援助を考え、成長へと繋げられるよう意識する。 ・報連相や職員間での連携を意識し、保育に努める。
【自己評価】 「B」	【評価内容】 ・本園が作成している教育保育課程や日々のねらいを意識して一人ひとりの姿や思いに寄り添いながら丁寧な援助を行うことはできたと感じる。しかし、集団での活動になると個別の援助を要する状況が多く見られることから、今後も発達や支援に応じた学びを深めていきたい。 ・子ども同士で関わり遊ぶ経験を通して、豊かな想像力を育むとともに、自分とは違う相手の存在や視点・思いに気づき時には葛藤し、自分の感情や意思を表現しながらも自己を発揮できるような援助を行った。 ・個々に合わせた適切な援助や支援を行えるよう細かな情報共有や園児理解に努めた。
3 職員同士の連携と情報の強化	☆職員一人ひとりの業務やチームとしての意識力向上に努める * 保護者からの情報と連携を取るための対策の見直しと改善 * 職員一人ひとりの『自分の得意』を活かせる場を作る * 職員の意識力向上に努める

	・管理職が一変したことで、これまでスムーズに行なえていたことや、業務においても確認することを意識して努めた。次年度も、子どもたちはもとより、保護者の方にも安心して通っていただけるよう意識して努める。
【自己評価】 「C」	【評価内容】 ・保護者との連携を深めるために、集団生活の中での子どもの育ちや困りなどをしっかりと把握し、家庭との連携を密にしながら情報を共有し、傾聴を意識して丁寧に対応することを心掛けた。 ・職員同士の連携という点においては、クラスでの心配事や悩み事を、一人で抱え込まないように、管理職を中心として園全体で共有することで、チームとしての意識力向上に努めた。しかし、経験年数において、考え方や思いも違うため、互いにあゆみより上手く進められるような環境作りを今後も意識していきたい。 ・得意を活かし場においては、絵を描いたり、縫物をしたり、ピアノを弾いたりと個々で発揮する姿は見られた。今後は、それを披露する場を設け、その経験を通して自己肯定感を高められるような職場作りを行っていきたい。

3 評価項目の達成及び取組み状況について（※各個人の自己評価チェックリストによる）

（A：成果が上かった B：ある程度成果が上がった C：もう少し努力が必要 D：改善が必要）

評 価 項 目	達 成 及 び 取 組 み 状 況
「教育保育の計画性」について 自己評価 「C」	・東橋いちいの職員として、それぞれが努力し保育に取り組めた点は、評価できると感じる。 ・北邦学園の教育理念や東橋いちいの教育保育目標に対する意識の低さを感じ、改めて学園の一員としての意識を持って職務に励むことが出来るよう取り組んだ。しかし、まだまだ理解を深めていきたいと考えるため、今後も引き続き取り組んでいきたい。 ・主任を中心として、学年部会を行いクラスの状況を把握すると共に、職員間での連携にも繋がるよう時間を掛け、話し合い計画的に進めることが出来た。特に大きな行事になると、日々の保育の中でも業務の優先順位が混乱する様子も見られたため、管理職が適宜個別に対応したことは、今後の改善点として意識したい。
「教育保育のあり方、幼児への対応」について 自己評価 「B」	・個々の成長や発達に合わせて、職員一人ひとりがしっかりと園児の気持ちに寄り添い対応できたと考える。しかし、個々への対応を重視するあまり集団としての連携の強化に視点が回らなくなってしまうこともあったため、今後の改善、努力として引き続き取り組んでいきたい。 ・日々、園児に対しての援助方法や指導について、また楽しいと思える保育などを考えて適切な対応を行えたと感じる。
「保育者としての資質と能力」について 自己評価 「B」	・職務と並行として、自身のスキルアップのための研鑽に励む姿は、保育者として頼もしく感じた。今後も資質能力向上のため、積極的に研修に出かけられるよう職場環境作りに努めたい。 ・外部研修のみならず、職場での絵本を取り入れた『キラキラ研修』を充実させることで、保育者としての意識を高められるような職員環境を意識したい。

「保護者への対応」について 自己評価 「C」	- 一人ひとりの保護者との関わりは、丁寧に行なえていたのではと感じる。しかし、その反面、職員の経験や保護者の思いに対する対応に至らない点があるため、今後も努力が必要と感じる。引き続き子どもや保護者の思いを大切にし対応できるよう努めたい。 - アンケートなど保護者の方のご意見をいただき、努力は行ってきたと感じる。今後も園としての説明や対応を丁寧に行い引き続き、努力していきたいと考える。
「地域の自然や社会との関わり」について 自己評価 「A」	- 今年度は、近隣の学校や施設にもご協力をいただき、連携の強化に努めることが出来た。 - 月1度の災害避難訓練には、先ず職員一人ひとりが危機管理に対する意識をもち対応するよう心掛けた。 - 備蓄品やハザードマップなども随時確認し、対応をした。担任用のヘルメットも購入したことで、園全体としての意識も高まり、より訓練への参加意欲も強まった。
「研修と研究」について 自己評価 「A」	- 研究は、今年度札私幼の公開保育を行ったことにより、自園の保育を振り返り大きな学びと保育者自身の経験や自信へと繋がった。 - 研修に関しては、それぞれが自分にとって学びたい内容や自ら選んだ研修に参加出来たことは、大きな評価としてあげられる。

4 今後取り組むべき課題

課 題	課題設定の理由
① 保育教諭の主体性の向上	- 自己目標を設定することで、どんな自分でありたいか、どのように行動すべきか自発的且つ見通しをもって意欲的に行動できるよう促していきたい。 - 様々な場面の中で、自分自身がしっかりとした目的や意志をもち、自主的行動へと繋がられるよう、個々に話し合いの場を設けたり、困った時には相談できるような職場関係作りを意識したい。
② 保育環境の整備	園舎の経年的な変化もあるが、安全対策を強め、園舎内外の保育環境の見直しを行い、子どもたちが安心してより、いきいきと積極的に遊びたくするような整備と環境構成に取り組む。 ※園庭遊具の配置、園内外の玩具の見直し、保育室環境の修理整頓
③ 保護者との連携強化	- 園運営や行事などについては、これまでの保護者アンケートをもとに、柔軟に対応し努めながら、保護者の考えや思いに少しでも寄り添えるよう細やかな配慮や素早い対応を意識したい。 - 新2号園児が増えている現状として、様々な家庭環境のご家庭に対しても、その状況に合わせた連携を行い、安心していただけるような保育体制を整えていきたい。